

全国的に早期流行しているインフルエンザの感染者数が、警報レベルと発表されました。インフルエンザの感染者の急増を受け、病院で検査が追いつかなくなるなど医療現場が逼迫状況に陥っているそうです。インフルエンザの最速ペースでの感染拡大は、新たな変異株(サブグレートK)が原因と言われています。また、新型コロナウイルス禍の感染症対策によってインフルエンザの感染も抑制されたことで、免疫力が低下していると指摘もあります。医療機関では年末年始に向けてインフルエンザに対する危機感が強まっているそうです。感染対策として重症化を予防するために予防接種が推奨されています。引き続き丁寧な手洗いやうがいなどをし、症状があれば早めの受診を何卒よろしくお願い致します。

## インフルエンザ

- ① 症状: 急な発熱や頭痛、倦怠感や関節痛、咳や咽頭痛など。
- ② 感染経路: 飛沫感染や接触感染が主な経路。
- ③ 潜伏期間: 1日から3日と短く感染力が強い。
- ④ 合併症: 脳症や熱性けいれん、肺炎や気管支炎、中耳炎や副鼻腔炎など。

### 熱性けいれんについて

乳幼児は、脳神経細胞が未熟なため体温が急激に上昇すると、脳が過剰に反応してけいれんを起こします。多くの場合は短時間で治まり心配はないのですが、稀にインフルエンザ脳症の初期症状や髄膜炎など可能性もあるため注意が必要です。

(けいれんが5分未満に治まっても直ちに受診する。)

けいれんが5分以上続いて何度も繰り返す。けいれんが治まった後、意識障害や異常行動がある。嘔吐や呼吸が苦しく、顔色が悪くチアノーゼがある場合、速やかに救急車を要請し医療機関で受診してください。

### 異常行動について

厚生労働省より注意喚起されていますが、抗インフルエンザ薬の服用の有無や種類に関わらず報告があり、発熱から2日以内の発生が目立つため保護者は、少なくとも2日間子どもをひとりにしないように求められています。

#### 異常行動の例

何かに怯えたり突然立ち上がったたり、外へ出ようと興奮して窓やベランダから飛び降りようとしたりする。

#### 異常行動の安全対策の例

- ① 玄関や窓、ベランダは、しっかりと施錠する。
- ② できるだけ子どもひとりにさせないようにする。
- ③ 一戸建て住宅の場合、できるだけ1階で休ませる。

### 感染対策として

- ① 丁寧な手洗いやうがい、こまめな水分補給を習慣にする。  
(喉の粘膜はウイルスが体内に侵入するのを防ぐので乾燥させないようにする。)
- ② 適宜換気や適切な気温と湿度を保つ。  
(空気が乾燥するとウイルスが広がりやすくなります。)
- ③ 免疫力を高めるために十分な睡眠とバランスのとれた食事をする。  
(子どもは、早寝早起きして朝ごはんをとる事が最も大切です。)
- ④ 重症化を防ぐために予防接種が推奨されている。
- ⑤ 毎日登園前と帰宅後、体調確認(熱や咳、嘔吐や下痢、食欲の有無など)



### 年末年始の急病について

ほとんどの医療機関は、休診となります。子どもの急な病気や怪我に備えて事前にかかりつけの病院や休日診療所の診察時間を確認しておきましょう。また、帰省先などの情報を把握しておく事も大切です。

救急安心センターおおさか

救急医療相談#7119

☎06-6582-7119

### 11月の感染者数

- ① インフルエンザ A 型・・・44名  
(みなし陽性も含む)
- ② インフルエンザ B 型・・・1名
- ③ RSウイルス・・・11名
- ④ 溶連菌・・・5名
- ⑤ りんご病・・・3名
- ⑥ 細菌性胃腸炎・・・1名
- ⑦ ライノウイルス・・・1名